

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月11日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720164

研究課題名（和文） 東アジアにおける儀礼文化の比較歴史学的研究

研究課題名（英文） Reception and Transfiguration of the Chinese Rites in its Pervasion throughout Eastern Asia

## 研究代表者

稲田 奈津子（INADA NATSUKO）

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：60376639

研究成果の概要（和文）：現代に残された史料の少ない時代・地域の儀礼文化を復原するためには、比較的史料が豊富に残る時代・地域との比較研究が有効である。本研究では、律令制・儀式書・金石文などの検討を通して、中国古典にもとづく儀礼文化が、朝鮮半島や日本列島でいかに受容され、変化していったのかを考察した。あわせて、新出資料に関する基礎的研究をおこない、多様な分野の研究者に新たな視点から研究利用してもらえるよう配慮した。

研究成果の概要（英文）：The recovery of ritual culture from periods and places with little extant historical documentation can be facilitated by comparative research on periods and places in which historical documentation exists in relative abundance. This research investigated the *lu-ling* statutes, ritual books, and steles as a means to consider how the ritual culture of ancient China was received and transformed on the Korean peninsula and Japanese archipelago. Also, foundational research was conducted on newly discovered materials. This study is intended to be useful in furnishing new perspectives to researchers of many disciplines.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：日本古代史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：比較歴史学 東アジア 儀礼 喪葬 律令制 正倉院 金石文

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、喪葬儀礼を中心とする日本古代の儀礼について研究を進めてきたが、その際、律令制研究の分野で確立されてきた中国史料との比較研究という手法を取り入れ、残されたわずかな史料から奈良時代の儀礼を復原する試みをおこなってきた。平成17～19年度には若手研究(B)「東アジアにおける律令制儀礼の構造と展開」とし

て研究を進展させ、多くの成果を得ることができた。その成果は大きく2点に集約できる。

ひとつは、中国浙江省寧波市天一閣博物館所蔵の天聖令残本が、発見から7年を経てようやく公開されたのを受け、その分析をおこなった点である。本史料は喪葬儀礼にも関わる重要史料であり、中国社会科学院の研究者らによって研究・編纂された史料集の公刊によって、律令制研究をより有利な条件で進め

る環境が整い、研究代表者も検討を始めたところである。

もうひとつは、異なる地域や時代の儀礼を積極的に比較検討することで、史料の欠損している地域・時代の儀礼を復原する試みをおこなったことである。具体的には、山陵祭祀等における文書を焼く行為について、唐代や朝鮮王朝の事例と比較することで、日本古代社会への受容過程を検討したものや、史料の僅少な奈良時代の天皇の喪葬儀礼を、平安時代史料と唐代史料とを比較することで復原したものなどがあり、従来は史料的限界を理由にほとんど論じられてこなかった分野についての初めての試みと言えよう。

本研究課題では、こうした研究成果を背景に、新しい儀礼研究の方法論を探るとともに、より具体的な事例研究をふまえて発展させることを目的とした。

## 2. 研究の目的

東アジア世界は、近代に至るまで中国文化の強烈な影響下にあり、中国古典文化に源流を持つ儀礼が、それぞれに固有の要素を加えながらも、時代や地域を越えて連綿とおこなわれてきた。これは伝統を墨守し反復・回帰することに意義を持つという、儀礼自体の特質によるもので、このために中国礼制にもとづいた儀礼は、通時代性・越境性を持つ普遍的な存在として存続したのである。

こうした特質をもつ儀礼の研究においては、史料的限界のある地域・時代についても、比較的史料の豊富な異なる地域・時代の事例と比較することで、歴史像の復原が可能になる。また同じ古典にもとづく儀礼を目指しながらも、地域・時代で生まれる差異からは、その地域・時代の文化的特徴を読み取ることが可能となる。ひとつの雛形が用意されている儀礼であるからこそ、比較歴史学研究としては最適のテーマと言えるのではなからうか。

## 3. 研究の方法

(1)比較研究の主軸としての律令制儀礼の研究…東アジアにおける儀礼の比較研究の主軸として、唐代における儀礼の再検討をおこなう。唐代に注目したのは、儀礼関連史料が比較的豊富であることとともに、当該期の儀礼が律令制の広がりとともに朝鮮半島や日本へと伝播し、大きな影響をもたらしたと考えられるからである。具体的には、天聖令の分析をもとに唐・宋・日の儀礼に関する法のあり方を検討する。

(2)儀式書の比較研究…地域や時代の異なる儀式書を比較することによって史料的限界を補い、比較文化研究が可能になると考える。そこで唐の皇帝喪葬儀礼について記した大唐元陵儀注についての検討をおこなった

上で、これとの比較研究を念頭に、朝鮮王朝期の儀式書である国朝五礼儀の基礎的検討をおこなう。

(3)正倉院宝物に関する研究…奈良時代儀礼を考察する上で、儀礼に関連する物品の原物が残されている正倉院宝物は貴重な存在である。そこでこれらに関する基礎的検討をおこなうとともに、具体的な事例研究として幕末から明治にかけての宝物調査に注目して考察をおこなう。

(4)儀礼関連金石文資料の検討…喪葬儀礼と深い関連のある金石文資料（墓誌・買地券・舍利莊嚴など）について、先行研究による個別の詳細な検討結果をふまえ、比較研究の視点から考察をおこなう。新出資料については基礎的な個別研究にも取り組む。

(5)儀礼関連史跡の調査…儀礼研究を進める上で、史跡調査は大変重要な意味を持っている。儀式書の記載を理解するためには、地域や時代は異なるとしても、実際に儀式に利用された場や遺物の調査は不可欠である。そこで文献史学の立場からこうした史跡の調査をおこない、文献に記された施設・道具との照合を中心に検討をおこなう。

## 4. 研究成果

(1)比較研究の主軸としての律令制儀礼の研究…天一閣博物館・中国社会科学院歴史研究所天聖令整理課題組校證『天一閣蔵明鈔本天聖令校證 附唐令復原研究』（中華書局、2006年11月）が刊行されたことを受け、新発見史料である北宋天聖令のうち、儀礼関連篇目を中心に検討した。天聖令の発見により、儀礼関連篇目に関しては、従来の予想以上に、日本令が唐令に依拠していたことが判明している（稲田奈津子「北宋天聖令による唐喪葬令復原研究の再検討—一条文排列を中心に—」『東京大学史料編纂所研究紀要』18号、2008年3月）。そこで本研究では新たに、南宋期の法典である慶元條法事類と天聖令（および不行唐令）を比較することで、南宋にいたるまで唐令の制度がほとんど変化することなく存続していたことを明らかにした。このことは、儀礼に関する法制が地域・時代を超えてかなりの普遍性を維持したことを示す一方で、法制資料からは現実社会における儀礼の具体相をはかりがたいことをも同時に示すであろう。その研究成果は〔雑誌論文〕⑭（中国語訳文⑳）にまとめたが、川村康氏は本論文における比較研究の手法を応用・発展させた論文を発表されており（「宋令変容考」『法と政治』62巻1号Ⅱ、2011年4月）、宋代法制史研究においてもその手法の有効性が認められたものと自負している。

(2)儀式書の比較研究…中国皇帝の喪葬儀礼史料である大唐元陵儀注について、その注釈作業を2000年度より継続しておこなって

いる。本研究期間中にはその最終部分の注釈作業を終え〔雑誌論文〕⑧にまとめた。本注釈作業は中国学会でも注目され、その依頼によりこれまでの注釈作業の概要を中国語で紹介したのが〔雑誌論文〕⑬である。その後は現在に至るまで、2012年度刊行予定の注釈書出版に向けた再検討を継続している。以上の成果をふまえ、朝鮮王朝期の国王喪葬儀礼について記す国朝五礼儀の凶礼部分について検討し、まずは註釈作業をおこなって、その一部を〔雑誌論文〕⑤にまとめた。本論文作成にあたっては、大唐元陵儀注をはじめとする中国資料との比較研究を念頭におき、今後の詳細な検討の土台となるものをめざした。以上の作業を進めるにあたり、関連史跡の現地調査を数度にわたって実施した。特に2010年12月に実施した中国西安における元陵をはじめとする唐代皇帝陵の踏査、および2009年度の韓国在外研究期間中に重点的におこなった朝鮮王陵の踏査は、儀礼空間の理解に非常に役立った。

(3) 正倉院宝物に関する研究…奈良時代儀礼を復原する上で重要な参考資料となる正倉院宝物に関して、東京大学所蔵の卷子本『正倉院御物写』の検討をおこなった。関連資料の調査を実施し、その調査概要は〔雑誌論文〕⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳などとして随時発表し、また正倉院文書との関連に重点をおいた〔雑誌論文〕⑩を発表した。さらに本資料を研究素材として広く一般に利用してもらい、さらなる研究の進展をはかるため図録を作成し（〔図書〕①）、研究成果をふまえた解説を執筆した。以上の研究成果を中心に、韓国で口頭発表をおこなった（〔学会発表〕④③）。日本における正倉院研究の最前線を紹介することに重点を置いたが、特に文物の国際交流に関して多くの示唆を得ることができ、東アジアにおける儀礼文化の伝播を考える本研究課題にとっても有益な機会となった。その報告内容は〔雑誌論文〕⑦として発表したが、正倉院文書研究に関する韓国語による初めての概説としても、意義を持つものと考えている。

(4) 儀礼関連金石文資料の検討…近年の考古学調査の成果をふまえ、当初の研究計画には無かったものの、本研究課題により効果的と思われる、金石文を用いた比較研究の試みを開始した。日本古代の喪葬儀礼を考える上で重要な史料となる墓誌について、現物の実見調査とともに墓誌出土地の踏査を継続的に実施し、また周辺諸国における考古学成果などをふまえた再検討をおこなった。その成果は〔学会発表〕②①として口頭報告した。また特に韓国所在の金石文資料の実見調査、および関連史跡の踏査を数度にわたっておこない、その成果にもとづいて〔雑誌論文〕③①を発表した。これらは、儀礼文化の比較

研究において示唆に富む事例を紹介し解説を付したものであり、今後のさらなる研究に向けた基礎作業と位置付けている。また在外金石文の拓本調査を国内所蔵諸機関において継続的に実施した。

(5) 儀礼関連史跡の調査…前項までの記述と重複するが、国内では正倉院宝物関連資料や金石文資料の所蔵機関を中心に実見調査をおこなった（奈良国立博物館、東京国立博物館、九州国立博物館、白鶴美術館、春日大社、東大寺図書館ほか多数）。また墓誌出土地を中心とする史跡踏査をおこなった。国外では、中国の西安郊外において唐代皇帝陵の踏査を実施し（元陵・橋陵・恵陵・泰陵・高力士墓・永康陵・莊陵・貞陵・昭陵・建陵など）、また洛陽でも博物館等所蔵資料の調査や皇帝陵踏査などをおこなった。韓国では金石文資料所蔵機関を中心に所蔵資料調査を実施し（国立中央博物館、国立慶州博物館、国立扶余博物館、国立公州博物館ほか多数）、王陵や寺院址などの踏査をおこなった。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計16件）

- ① 李宇泰（稲田奈津子 訳）、韓国の買地券、都市文化研究、査読有、14号、2012、pp. 106-109
- ② 金相勲（稲田奈津子 訳・三上善孝 解説）、韓国人の起源に関する中高生の意識と『国史』教科書との関係、山形大学歴史・地理・人類学論集、査読無、13号、2012、pp. 27-54
- ③ 稲田奈津子、百濟弥勒寺の舍利奉安記について、朱、査読無、55号、2011、pp. 252-262
- ④ 稲田奈津子、杜園と橋本仙之助—森川杜園『正倉院御物写』の世界（5）—、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、54号、2011、pp. 16-21
- ⑤ 稲田奈津子、『国朝五礼儀』凶礼試積—東アジア儀礼文化の比較歴史学的研究をめざして—、訪韓学術研究者論文集（財団法人日韓文化交流基金）、査読無、11号、2011、pp. 95-140
- ⑥ 稲田奈津子、麒麟の頭は誰の作か、日本歴史、査読有、753号、2010、pp. 74-75
- ⑦ 稲田奈津子、正倉院文書調査の過去と現在、木簡と文字（韓国木簡学会）、査読有、5号、2010、pp. 129-145
- ⑧ 金子修一・稲田奈津子・小倉久美子・鈴木桂・河内春人、大唐元陵儀注試積（終章）、國學院大學大學院紀要—文学研究科一、査読無、41号、2010、pp. 21-53

- ⑨ 稲田奈津子、杜園と模写をめぐる人々—森川杜園『正倉院御物写』の世界(4)一、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、45号、2009、pp. 16—19
- ⑩ 稲田奈津子、森川杜園『正倉院御物写』と日名子文書、正倉院文書研究、査読有、11号、2009、pp. 85—104
- ⑪ 稲田奈津子、宝物と模造をつなぐもの～檜和琴と白石火舎—森川杜園『正倉院御物写』の世界(3)一、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、44号、2009、pp. 8—11
- ⑫ 稲田奈津子、《慶元條法事類》與《天聖令》—唐令復原的新的可能性—、唐研究、査読有、14号、2008、pp. 99—120
- ⑬ 金子修一等(分担執筆)、《大唐元陵儀注》概説、文史、査読有、85号、2008、pp. 153—167
- ⑭ 稲田奈津子、慶元条法事類と天聖令—唐令復原の新たな可能性に向けて—、大津透編『史学会シンポジウム叢書 日唐律令比較研究の新段階』、査読無、2008、pp. 77—96
- ⑮ 稲田奈津子、宝物と模造をつなぐもの～墨絵弾弓再考—森川杜園『正倉院御物写』の世界(2)一、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、43号、2008、pp. 10—13
- ⑯ 稲田奈津子、墨絵弾弓の模写・模造・文様—森川杜園『正倉院御物写』の世界—、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、42号、2008、pp. 2—5

[学会発表] (計4件)

- ① 稲田奈津子、日本古代墓誌の系譜、北大史学会例会、2011年9月15日、北海道大学
- ② 稲田奈津子、日本古代墓誌の系譜、2010年度ドクター研究員プロジェクト(代表:牧飛鳥)「日本古代の墓誌の再検討」研究会、2011年1月29日、大阪市立大学
- ③ 稲田奈津子、正倉院宝物と文化財調査、第7回日研フォーラム、2010年3月8日、高麗大学校日本研究センター(韓国)
- ④ 稲田奈津子、正倉院文書調査の過去と現在、韓国木簡学会第7回定期発表会、2010年1月15日、ソウル市立大学校(韓国)

[図書] (計1件)

- ① 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻・東京大学史料編纂所画像史料解析センター、同、森川杜園『正倉院御物写』の世界、2009、48

[その他]

新聞報道「正倉院宝物模写 100点 東大所蔵 明治期、模造の下絵に」(読売新聞 2008年12月9日夕刊(大阪本社)3・4版)

新聞報道「正倉院宝庫の「日名子文書」 幕末の国学者 流出関与?」(読売新聞 2009年3月19日夕刊(大阪本社)3版)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

稲田 奈津子 (INADA NATSUKO)  
 東京大学・史料編纂所・助教  
 研究者番号: 60376639

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし